

第72回結核予防全国大会 おことば



令和3年3月2日（東京都）

本日、「第72回結核予防全国大会」が、「結核対策の今 ～ 感染症の新たな局面を迎えて ～」をテーマにオンラインで開催されます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したため、静岡県で開催が予定されていた大会が中止になりました。本年の大会は京都府で実施することになっておりましたが、感染の状況をふまえ、オンラインで本部のある東京と各支部をつないでおこなう形で開催することとなりました。大会に向けて準備をしてこられた皆さまとお会いできないことは残念でございますが、全国の皆さまとともに大会に参加できますことをありがたく思い、多くの関係者に感謝いたします。

本大会において、このたび、第23回ならびに第24回の「秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、心からお祝いを申し上げます。皆さまが、長年にわたって結核対策に貢献してこられたことに対し、深く敬意を表します。

結核対策は、国の内外を問わず、人びとが健康に暮らしていくために、いまもなお大変重要な課題です。

日本の結核罹患率は年々低下しているものの、最新の統計である2019年でも、約14,000人が新たに結核を発症しています。新規登録結核患者の6割以上は、

65 歳以上です。また、若年層の結核患者には外国出生者が多く、特に 20 代では、新規登録結核患者の七割以上が該当します。世界に目を向けると、2019 年において約 10,000,000 人が新たに結核を発症し、約 1,400,000 人が命を落としています。

このような状況を改善するため、国内の結核患者の発見や治療に力を入れることに加えて、罹患率が高い国や地域に対して日本の経験を活かした協力をおこなうことが求められております。

昨年は、世界結核肺疾患予防連合、通称「ユニオン」が創立 100 周年を迎えました。10 月には「肺の健康世界会議」が「予防の促進」というテーマのもと、オンラインで開催され、世界各地の結核対策について様々な立場から活発な議論がおこなわれました。こうした機会を通じて結核についての理解が更に進み、世界の人々が結核をなくすために一層力を合わせるすることができますよう希望しております。

今回の新たな感染症の対策では、保健所をはじめとする地域に根づいたネットワークの活用や積極的疫学調査によるクラスター解析など、長年にわたる結核対策の経験が役立てられてきました。しかし、昨年から今年にかけての厳しい状況下で、通常の健診を受ける人が減り、結核患者の発見の遅れなども懸念されています。一方で、公衆衛生の重要性が幅広く人々に認識されることが、これからの結核対策の基盤を強める機会になるとも考えられています。

現在の困難な状況の中、結核予防会をはじめ、医療・保健に携わる人々が、日々、結核対策に尽力していることは心強いことです。私たち皆で、結核を含む感染症に対して正しい知識を得て理解を深め、思いやりを持って適切な行動をとれますよう、心がけて参りたいと思います。

結核予防に関わる皆さまが、これからもご自身の健康に留意されながら、人々の健康を支えるために、大切な役割を果たしていかれることを期待し、式典に寄せる言葉といたします。